

近來頗るニ歎服已ハ諸國中殊ノ如キ實利實業ノ成程也實利實業ナ  
モノ喰ハシ耳度外に於テ御足ナシニ取扱事々々シテノ内  
共和政府が佛蘭西ニ宿モラレタル所ハ「メモリ」入た内  
ラント是等ノ事實ヲ獨り想起シテ一夜ノ考案を胸中ニ置  
フシフセマナリ

然リト雖也人罪ハ若つ河クシテ行フ可ラザルモノアリ  
テニヤ之ヲ行フア實功ヲ奏ス可キヤ否ニ至ルマアハ其距  
離甚シ遠シ前節ノ考案モ唯コレヲ心口想フケルモノニレ  
テ之ヲ言フテ事實ニ行ハル可キヤ之ヲ決スルヲ容易ナラ  
ス我輩ハ董子テ之ヲ思ヒ又コレチ案シテ其其實萬ノ難キ  
ヲ發明シタリ其次第ハ明治十一年十二年以後ノ有様ハ復  
ク純然タル藩閥薩長ノ寡人政府ニノ其實權ノ歸スル處、  
沈深ニシテ守ラント欲スル者モアラント雖ニ活潑ナルモ  
其動ヲ逞フスルヲ得ヌ、沈深ナルモ屹然自立スルヲ得ヌ、  
動靜不分明ノ間ニ彷徨シテ其成跡ハ唯朝野共ニ閑居スル  
ノミ天下ノ人心ハ日ニ倦ミ退屈シテ無聊モ嘗ヘサル其時  
ニ當ニ恰モ好シ政府ヨリ求メテ府縣會ナルモノヲ開キ人  
民參政ノ思想ハ頓ニ發達セテ之ヲ加ルニ地租改正ノ結果  
ハ地方ノ富貴ヲ致シテ民心ニ國事ヲ思フノ餘地ヲ失ヘ無  
事關散ナル學者辨士ノ輩ハ都鄙ニ出沒シテ多方就論ノ術  
ヲ如何トモス可ラス寡人政府ノ体裁ナ其マニニ敬良シア  
府中ノ一名ヲ推シ以テ大政ノ権柄ヲ執ラシムノ念ハ是  
ニ於テ全ク斷絶シタリ（本年三四月ノ際ニ發覺シタル時  
事新報ノ社説時事大勢論ヲ參考セヨ）我寧ハ固ヨリ民權  
ノ友ナレモ仮ニ心事ヲ轉シテ此民權論ヲ嫌惡ス者ト爲  
リ身ナ其地ニ置フ異質ニ此論ヲ撲滅セントスルノ策ナ案  
ア政權を得ント欲セル者ナレハナリ左レハ羅新草命ノ政府  
初ニ於テ強藩中ノ一藩主ガ天下ノ大權昇殿ナ獨創ノ政府  
ヲ作フサリシ以上ハ早晚人民ノ參政ヲ以テ進歩ス而ナ能  
フ可キト氣運ノ然ラシム所カアズベ良一

本卷五十一

シアラスト等ノ事務所ノ主事者ニシテ、  
シテノシテ、下ヲ實金等ノ仕組ニ至テハ富ノ  
如クモ見、益増殖ノ如クモ見ヘ又或ハ真實性質ノ  
善良ナルモアリテ其分界殆ト識別ス可ラサル者  
少ナカラス故ニ我輩ノ願フ所ハ此公然タル公布ノ文  
ハ固ニヨ此体裁ノマニ存シテ別ニ註釋ノ文ヲ附シ  
布告中ニ國ミ難キ文字ニハ假名ヲ附ケテ兼テ其字義  
キ又富ト云ヘハ如何ナル性質ノモノナ富ト稱  
シテノ久ノ間假令ヒ其姿ハ相類スルモノ富  
ト非富ノ分界ヲ明白ナラ

アリカニテノ事也シ。爲コハ常ニ要用ナ。吾ナレル  
例々昨日ノ御布告ヲ拜見シテ序トカラ即刻ノ思付キ  
テ記シタルマヅノ事ノナリ又序迄カラ一言ス可キハ  
富ノ事ニ付テハ近來西班牙政府ノ大無能ト稱シテ横  
濱ヨリ之ヲ輸出シテ之ヲ賣出者甚多。實ノ據テ賣出スル者アリ右ハ  
如何。　　國ニシテ當與行ノ體ハ明治元年十二月

三十	支更ニ腰紫ト爲シ今又其賣貿牙 シニ付テハ外國ノ謂ト雖ニ固ニ シテスルノナラズ凡ソ 事在シニ古義ヲ購買
三十一	御上之御・貢之御・御上之御 御上之御・貢之御・御上之御
三十二	御上之御・貢之御・御上之御 御上之御・貢之御・御上之御
三十三	御上之御・貢之御・御上之御 御上之御・貢之御・御上之御
三十四	御上之御・貢之御・御上之御 御上之御・貢之御・御上之御